

**FY-11 を用いた南アジア域における対流活動の
日変化及び水蒸気変動の解析**

山崎信雄

FY-IIを用いた南アジア域における対流活動の日変化及び水蒸気変動の解析

高橋 清利・山崎信雄 (気象研究所気候研究部)

Current status of FY-2 (Feng Yun 2)

- FY-2A June 1997 打ち上げ
- FY-2B 25 June 2000 打ち上げ
現在運用中
- 位置 105E (45E-165E)
- Channel IR, WV, VIS
- FY-2C Spring of 2003
- FY-2D 2006



Original plan

FY-2データを用いたインド洋域・モンスーンの対流活動日変化の解析

- Meteosat-5 63E (13E-113E)
June 1998 以降

Title 1

GMS IR histogram data を用いた雲量長期変化・日変化の解析

高橋 清利・山崎信雄 (気象研究所気候研究部)

- これまで、領域平均したTBB、雲量が解析に主に使われている
- 長期間の変動特性はこれから ex. 赤道域中部太平洋: CMAPで降水量減少

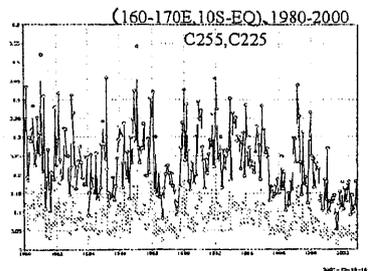


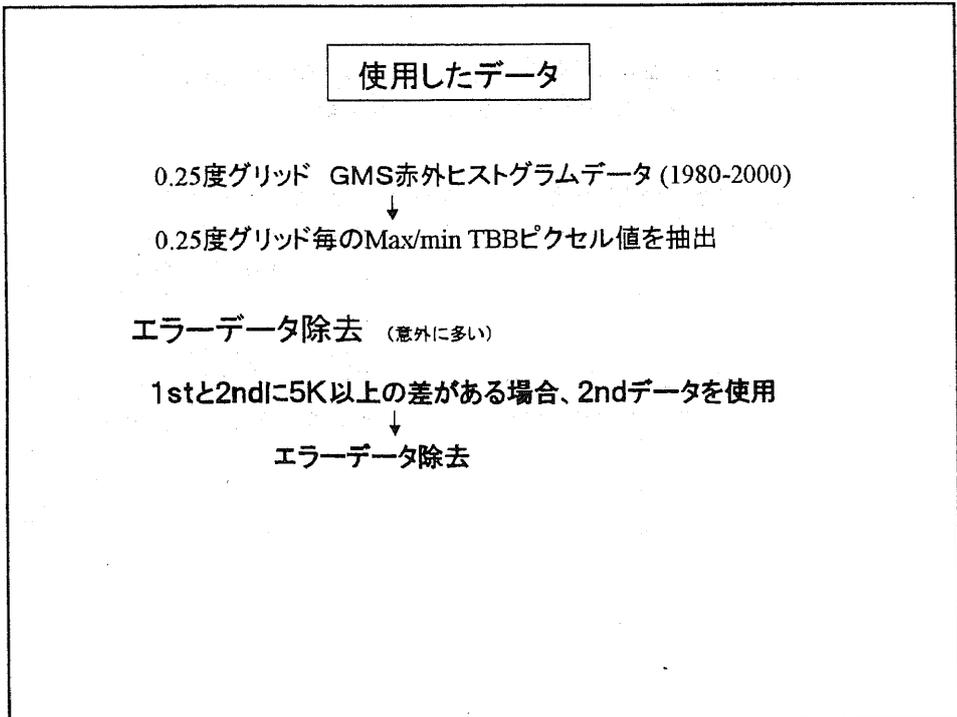
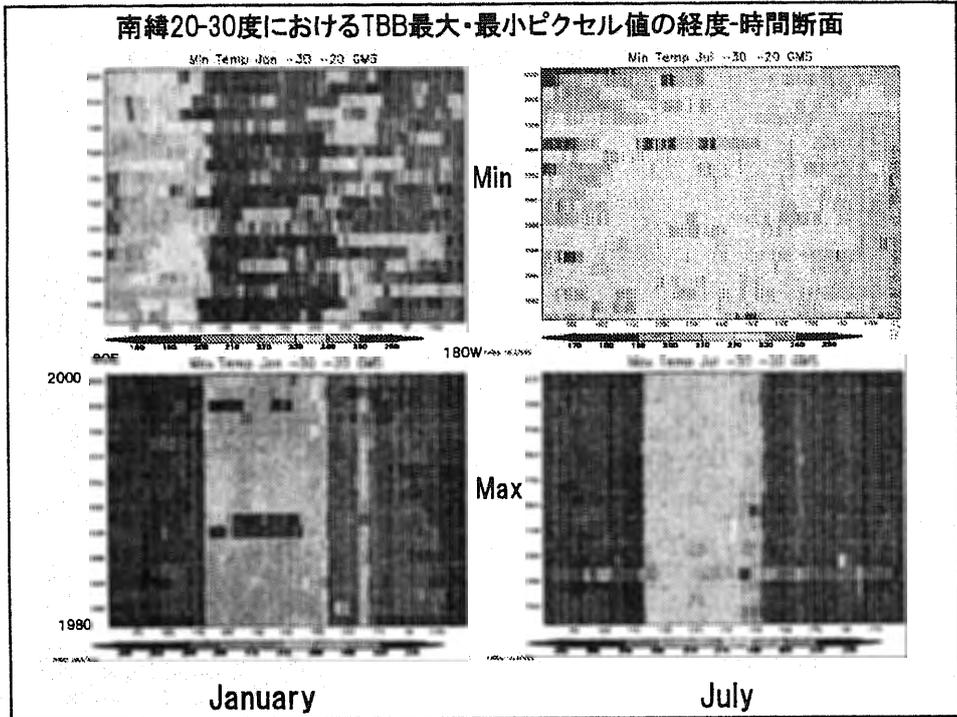
- 自然変動か否か? 小雲量地域でcheck
赤外はシャッター温度、宇宙空間温度で校正済み

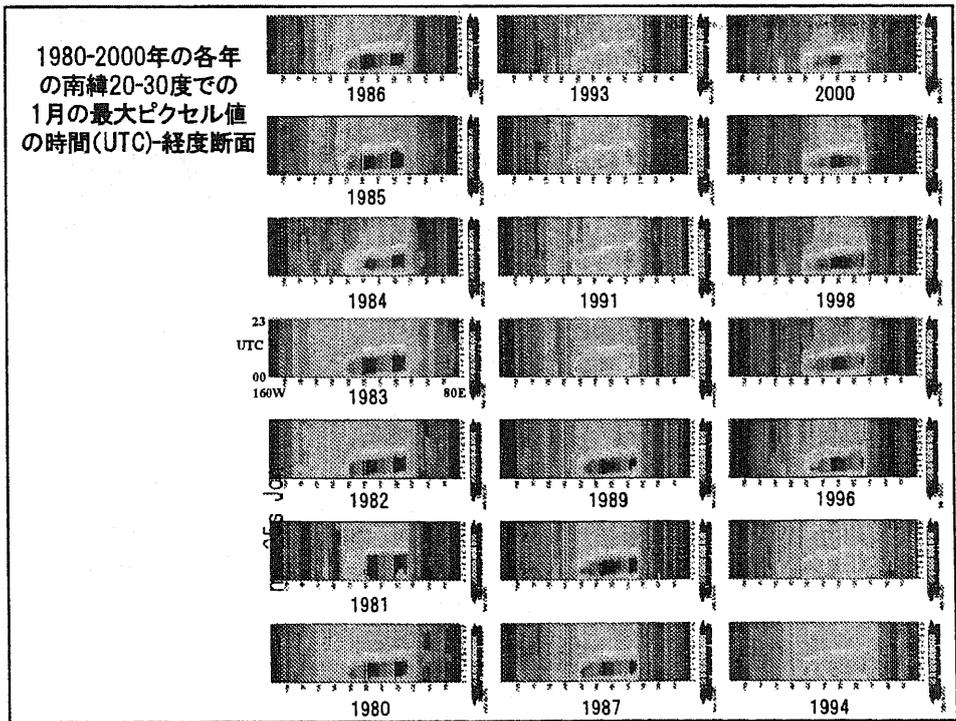
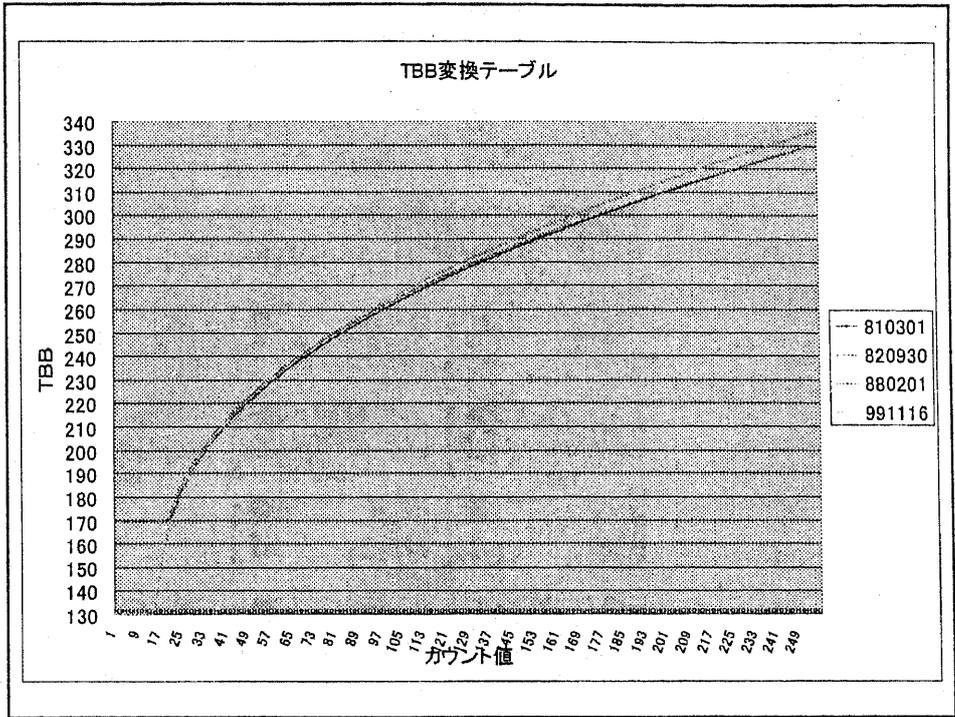


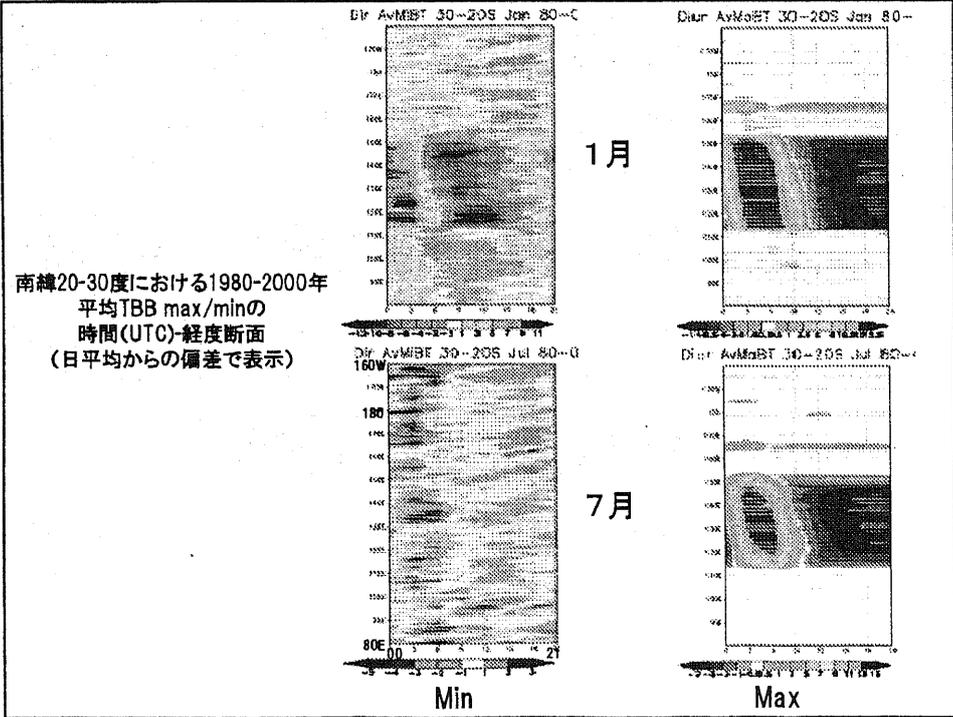
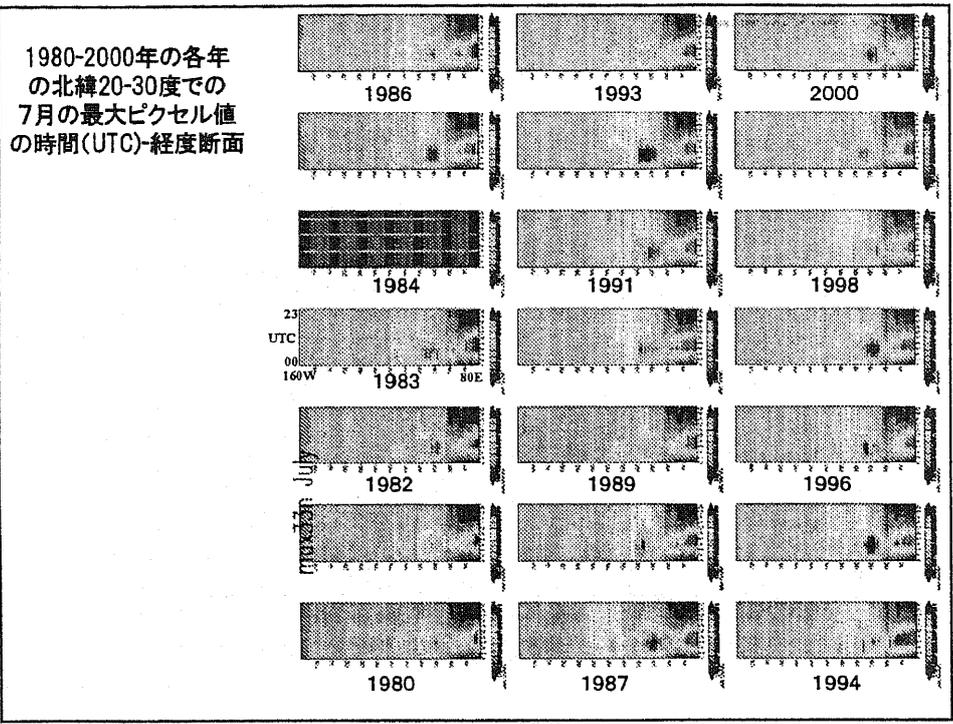
0.25度grid内の TBB minimum or maximum pixel値

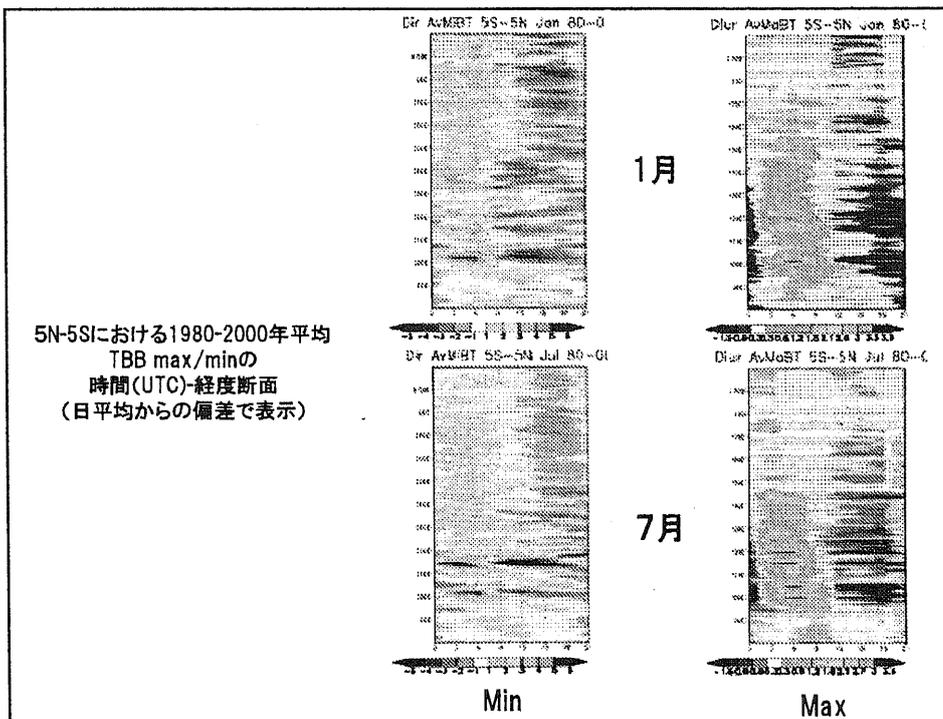
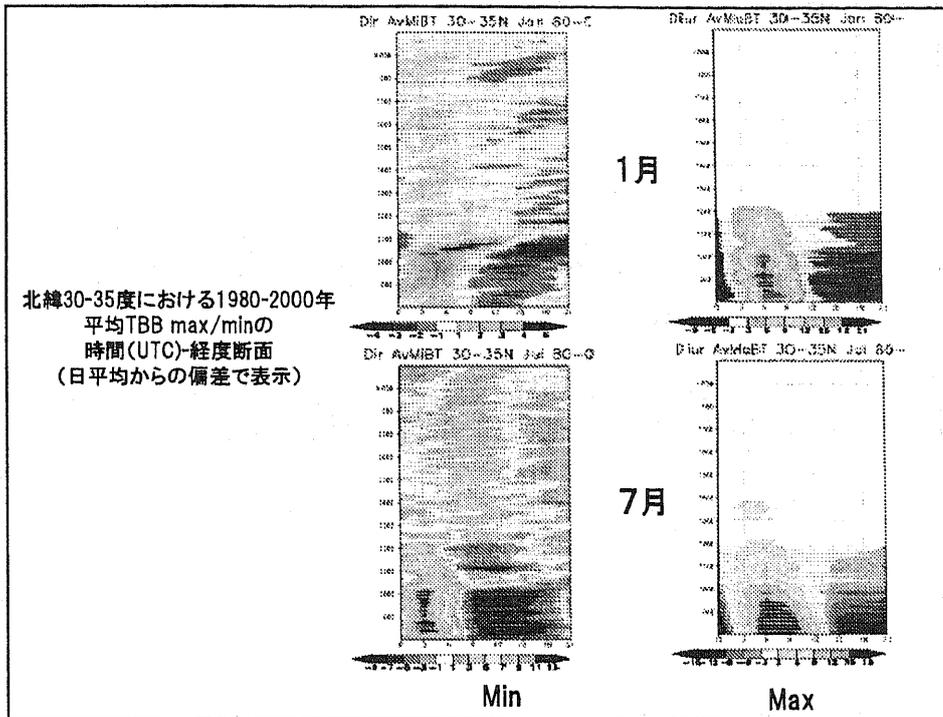
- 目的
- 品質チェック
 - Max/minの経年変化
 - Max/minの日変化











まとめ

- ・ TBB ヒストグラムには変換テーブルの違いが影響する場合 (max/min)があるが、閾値別雲量には較正が正しい限り影響ない。
- ・ TBB min data について調べた結果は、これまで得られた平均TBB、雲量日変化の傾向と矛盾しない。
- ・ 長期的傾向を論じるには、データの品質について詳細な検討が必要である。